

# 東日薬会報

発行所 北海道石狩郡当別町金沢1757番地 ☎(01332) 3-0301 直通・FAX 編集人 浜上 尚也  
 北海道医療大学薬学部同窓会 ☎(01332) 3-1211 大学代表 発行人 山崎 信彦  
 印刷所 (株)関西廣濟堂/北海道営業所 札幌市白石区菊水二条1 ☎(011) 842-5510



## 目次

東日薬懇親会のご案内……………(2)  
 発行にあたって「平成10年にむけて」…山崎 信彦…(3)  
 退任にあたって……………縣 功…(3)  
 退任にあたって……………高田 昌彦…(4)  
 退任にあたって「新しきものを創る喜び」…藤間 貞彦…(4)  
 総会報告:事業報告・計画, 会計報告・計画……………(5)  
 新入会員, 教員人事……………(6)  
 協賛広告……………(7)  
 編集後記……………(10)

## 第31回日本薬剤師会学術大会 東日薬懇親会のご案内

平成10年9月19日(土)・20日(日)に札幌で開催されます第31回日本薬剤師会学術大会に合わせ東日薬懇親会を開催することとなりました。学会参加の有無にかかわらず会員の皆様におかれましては多数参加されますようお願い申し上げます。なお、本学の先生方も多数参加される予定です。

日 時：平成10年9月18日(金) 午後7時より

場 所：札幌ガーデンパレス  
札幌市中央区北1条西6丁目  
TEL (011) 261-5311

会 費：10,000円  
(当日ご持参ください)

出欠の確認を同封のハガキにて9月1日までにご連絡ください。

本懇親会に関するお問い合わせ  
北海道医療大学薬学部薬理学教室  
遠藤 泰，浜上尚也  
TEL 01332-3-1211  
(内線) 3147, 3148  
FAX 01332-3-1669  
E-mail : toruendo@hoku-iryu-u.ac.jp  
hamaue@hoku-iryu-u.ac.jp

## 発行にあたって 『平成10年にむけて』

東日薬会長 山崎 信彦



縣 功

会員の皆様におかれましては益々御清祥のことと心よりお慶び申し上げます。

さて第19回東日薬総会も5月30日に無事に終える事が出来ました。同窓会から情報の提供、学術の向上と親睦をはかることについて幾つか決定されましたので報告させていただきます。

会員皆様方への情報提供について昨年より懸案でありましたホームページの開設を盛り込みました。北海道医療大学のホームページの中に入る予定です、開設により今以上に会員皆様への情報提供の迅速化と量の増加が実現できることとなります、また皆様からのより多くの情報の収集が可能になることとなります。平成10年度内には開設出来ることと思います。

会員皆様への学術向上の提案として平成9年度に在宅活動のひとつとして「介護」をテーマに薬学セミナーを函館と旭川で開催しました。今年度は札幌と旭川で「介護保険」をテーマとしてセミナーを開催します。介護保険は私たち薬剤師にとって新たな職域の開拓につながることを考えられます。この介護保険の中には資格として介護支援専門員があります、私たち薬剤師は一定の条件を満たせば受験資格があります。今の医療保険の現状を考えますと平成12年度よりはじまる介護保険は私たち薬剤師の活躍の場となることは確実であります。第1回目の試験は今年の9月と10月に行われます(北海道は9月20日に決定されました)。この資格試験を機会に資格を所得するだけではなく「介護」の理解と今行っている在宅活動をより向上させる為によりよい機会ではないかと考えます。私たち薬剤師の本来の仕事である「薬を必ず服用してもらう」ことを考えますと、在宅患者が多くなっている今薬剤師が薬局から出て患者さんの御宅に行き患者さんや家族の方にその患者さんにあった服用方法を直接指導するのが重要で必要な事であると考えます。今回の介護保険は私たち薬剤師が薬局から出るのに良い機会ではないかと考えます。さらに薬剤師の職域を拡げることはこれから薬剤師になろうと思う人達のために、特に私たちの子供が薬剤師になりたいと思う為にも勉強しようではありませんか。今札幌では薬剤師不足も解消しつつあります、むしろ余っている状況です。これからの薬剤師のことを考えますと今回の介護保険の開始にともない、新たな職域を開拓するのが今働いている私たちの義務であると考えます。多くの会員皆様方の参加をお願いします。

会員皆様方の親睦をはかるために本部では薬学会や薬剤師大会に合わせて親睦会を開催したいと考えています。平成9年3月には薬学会に合わせて東京で親睦会を開催し多くの会員の皆様に集まっていただきました。今年は9月に札幌で薬剤師大会があります、同窓会ではその大会に合わせて親睦会を開催します。札幌は大学の地元でありますので多くの先生と同窓会会員の出席が期待されます、つきましては会員皆様方の出席をお願いします。

## 『退任にあたって』

北海道医療大学が創立した次の年昭和50年に奉職し早や23年が過ぎ本年3月31日で定年退職いたしました。

大学の早い期の方々は道東の音別に薬学の教養部のあったことを御存じだと思います。その音別の木村康一教授のもとで奉職いたしまして1期生、2期生の方々に薬用植物学実習を行ったのが始まりでした。大学の建っていた所は音別町から4Km、白糠町から10Kmという所で、大学と学生寮と教員住宅しかありませんでしたが、そこには素晴らしい大自然がありました。太平洋の波に洗われる海岸線にはハマニガナ、コオボウムギ、ハマナシの様な海辺の植物が、近くのパシクル沼にはツルコケモモ、モウセンゴケ、ワタスゲの様な湿地の植物が、大学のまわりにはカタバミ、コウゾリナ、オオイタドリの様な陸地の植物が、山に入るとエゾエンゴサク、ニリンソウ、コンロンソウ、クリンソウなどの山の植物があり薬用植物を専門とする者にとっては素晴らしい所でした。また当別にも北の自然があり音別地方では見かけなかったカタクリ、ゲンノショウコ、オノノヤガラ等多くの植物が私等の目にとり、また四季の自然の美しさは格別です。北の自然は大まかですが種々なものを皆様方に与えてくれたことと思います。仕事には熱中しなければなりません。ですが仕事を終わった後、休みの日などは是非自然の中に出て自然の息吹に接し、植物等に語りかけて下さい。そして青春の日々を過ごした北の大地と語りあった友を思い出して下さい。

皆様方に種々な講義でお目にかかりました、日本薬局方、薬用植物学、薬品合成化学、そして1期生の皆さんからずっと薬事関係法規を今年の卒業生の皆さんまで講義することができました。きっと皆様方はその試験のことを思い出すと思います。実習も薬用植物学実習、生薬学実習、薬品試験法実習、有機化学実習、それにほんの1部薬剤学実習も手伝わせていただきました。植物標本を作ったことも思い出の中にあると思います。このような講義、実習を通して皆様方に接することができ、お話しができたことは私の大きな宝です。

今私が初期の卒業生の皆様と接するとき皆様方の立派になられたのに驚いております。これに続く多くの方がおられます。先輩としておおいに活躍して下さい。そして後輩の面倒を見てあげて下さい。そして後輩は先輩を見習って下さい。そして同窓の輪を大きく広げてその中でお互に生長していただきたいと思っております。いつまでも皆様方1人1人を覚えています。皆様方のこれからの御活躍を心からお祈り申し上げます。

長い間どうも有難うございました。

## 『退任にあたって』



高田 昌彦

平成10年3月末日で薬学部を辞しました。非常に長い間、曲がりなりにも恙なく勤務できたことは、有難く多くの方々への感謝の念で一杯であります。本稿をかりて厚くお礼申し上げます。4月からは大学と同じ東日本学園が経営する札幌医療福祉専門学校に勤務しております。本校には、看護学科、介護福祉学科、言語聴覚療法学科（専攻科併設）の3学科があり、将来の医療・福祉を担う若い人達が勉学に励んでおります。私はこれから、多く経験を生かして学校の運営に努力したいと存じておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

私が大学に勤務したのは昭和52年8月からで、当時は薬学部のみであり、丁度1期生が4年目に在学していた時期でした。それから20年有余にわたり勤務しました。その間多くの学生諸君との出会いがあり、共に学び、共に語り合つて時を過ごしました。特に昭和53年から約7年間学生部長を勤めた期間は印象が深く、楽しく明るい出来事の半面、つらく悲しいことにも多く出会いました。本当に語り尽せぬ思いで一杯です。そして教育者として、自らの人間の未熟から、学生諸君に迷惑をかけたことも多かったと反省し、悔悟の思いを深くしております。

大学での研究面では、腎排泄を中心に薬物動態の研究を進めました。教室での研究手法も分子生物学の進歩を背景に、動物全体を使つての動態解析から出発して、組織→細胞→遺伝子レベルへと変わりました。医療薬学研究では臨床各科との研究には、必ず病院薬局の薬剤師が加わり、大学の教員・大学院生とのチームで研究を進め成果を上げることができました。これらの研究を通じて全くの有能な病院薬局薬剤師の先生方が研究実績を上げられました。今後も本学薬学部を核として医療薬学研究が継続することを願っております。

間もなく21世紀を迎えますが、時代の変化の流れのなかで、薬剤師が新時代にふさわしいどのような役割を担い得るのが、極めて重い課題になります。虚構は許されません。特に私自身、長い間日本薬剤師会教育委員会にたづさわって来たこともあって、薬剤師の社会的役割を見据えた教育改革を急がねばと憂慮しております。そして新しい時代感覚をもった若い薬剤師の人達の活躍に夢と希望を託しております。

当別キャンパスに20年以上通勤して、その大半は自家用車での通勤でした。振り返ってみて、よく事故もなく（冬の夜、帰路大学構内で車が横転し、学生諸君の拍手喝采を浴びたこともありましたが）過ごせたことを我ながら今になって驚き、安堵しております。当別キャンパスも20年間にすっかり様変わりし、雰囲気も華かになりました。すばらしい医療系の大学に成長した本学を誇りに思いながら、大学を去ることは本当に幸せなことだと深く感謝しております。北海道医療大学の発展と、卒業生諸君のご活躍を祈りながら、この稿を終りたいと存じます。

## 退任にあたって

## 『新しきものを創る喜び』



藤間 貞彦

東日薬の皆さん、医療変革の厳しい時代に多忙の日々、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

薬学部が創設されて間もない1976年、本学に着任してから早くも22年になり、今春には定年退職することになりました。さる2月27日に最終講義をする機会を頂きましたので、大学卒業後の43年間を振り返り、薬学や医療薬学について私なりに感じ、考えていることを標記の演題でお話しました。

私は、中学2年のときに戦争が終わり、高校、大学と新制度に変わり、大学卒業の年に北海道大学薬学部が新設され、海を渡り北海道に来て21年勤めて、本学に参りました。いつも新しく0からの出発だったので、苦しいことの連続であったように思いますが、人はよくしたもので、楽しかったことや曲がりなりにも達成感から喜びが湧いてきます。

本学は、今では薬学同窓生3000名、全学在生2100名を越えるまでに成長しましたが、1期生を迎えた頃は薬学部の校舎のみで、体育館や大学前駅は勿論、グラウンドもありませんでした。しかし、学生、教職員は若さに溢れ、新しい大学を創るのだと頑張っていました。町の建設会社の資材置場を借りて運動会が開かれ、若いエネルギーが大爆発したことを昨日のこのように思い出します。

大学も21世紀における薬剤師の果たすべき責務の重大さに備えて、薬学部は総合薬学科に改組され、大学院は薬学と医療薬学の2専攻になり、薬学6年制へと動き始めました。病院実習も必修となり強化されたので、これからは大学と医療の現場が一体になって薬剤師を育成する必要があると思います。医療チームの中で薬剤師が責務を果たすためには、「薬学や薬剤師のアイデンティティ」をより一層明確にし、確立することが最も重要な課題です。日進月歩の薬学における専門家として活躍するには、薬学6年制でも大学教育だけでは十分でなく、卒業後の実践的な学習が必要です。したがって、医師のような専門性と卒後トレーニングシステムの確立によって目的を達成できるように思います。

医療の現場を知らない分析化学屋の言ですが、私はこれまで薬学と臨床医学との協力関係を私の立場で追究してきましたので、薬学や薬剤師が医療の場で自己のもつ能力を十分に発揮していないように感じております。信頼される協力関係を築くためには「自己のアイデンティティ」を確立することが最も重要であり、たゆまぬ努力の必要があります。

来るべき21世紀の医療を担う東日薬の諸兄弟が新しき医療薬学や薬剤師像を構築して、我が国の医療の向上のために貢献し、活躍されることを祈念し、老人の喜びと致したく思います。

永い間お世話になり有難うございました。

## 平成9年度事業報告

### 主な事業内容

1. 理事会の開催
2. 第18回東日薬総会の開催（6月）
3. 講演会の開催
  - 1) 医療薬学セミナー（各支部と協力）

札幌	6月14日
帯広	7月12日
釧路	9月27日
旭川	10月4日
函館	10月18日
青森	10月18日
沖縄	10月25日
  - 2) 第12回医療薬学公開講座  
札幌 11月14日
4. 会報の発行（第13号／5月）
5. 大学との懇談会
6. 会員名簿発行（7月）
7. 定年退職記念祝賀会出席（2月）
8. 卒業生の入会案内および謝恩会出席（3月）

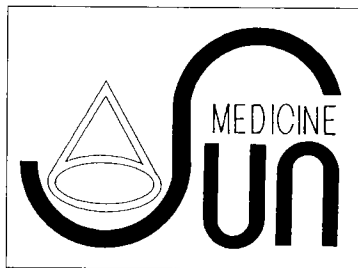
## 平成10年度事業計画

### 主な事業計画

1. 理事会の開催
2. 第19回東日薬総会の開催（5月30日）
3. 講演会の開催
  - 1) 医療薬学セミナー（各支部と協力）

札幌	5月30日
帯広	6月20日
旭川	10月3日
青森	10月3日
函館	10月17日
釧路	10月17日
沖縄	10月17日
  - 2) 第13回医療薬学公開講座  
札幌 11月14日
4. 会報の発行（第14号、第15号）
5. インターネット・ホームページ開設
6. 大学との懇談会
7. 卒業生の入会案内および謝恩会出席（3月）
8. 懇親会の開催（9月18日／札幌）
9. その他

青森県



有限会社サン・シヨウ

# サン調剤薬局

代表 第一期生 三 上 章

## ■ハツ橋店 (本店)

〒030-0944 青森市大字筒井字ハツ橋1382-16  
TEL0177 (28) 3200 FAX0177 (28) 2552

## ■桂木店

〒030-0844 青森市桂木町4丁目6-35  
TEL0177 (34) 7890 FAX0177 (34) 7891

## ■八重田店

〒030-0912 青森市大字八重田字鶴見11-37  
TEL0177 (26) 3377 FAX0177 (26) 3387

## ■ベイブリッジ店

〒038-0002 青森市沖館4丁目8-20  
TEL0177 (82) 8855 FAX0177 (82) 8866

## ■虹ヶ丘店

〒030-0948 青森市虹ヶ丘1丁目3-15  
TEL0177 (44) 5511 FAX0177 (44) 5512

## ■ハマダテ店

〒030-0944 青森市田屋敷字増田4-3  
TEL0177 (65) 1133 FAX0177 (65) 1134

## ■富野町店

〒036-8174 弘前市富野町9-1  
TEL0172 (37) 6677 FAX0172 (37) 7747

## ■安原店

〒036-8162 弘前市安原2丁目1-36  
TEL0172 (87) 6666 FAX0172 (87) 6667

## ■名川薬局

〒039-0503 三戸郡名川町大字平字虚空蔵40-3  
TEL0178 (76) 1010 FAX0178 (76) 1004

小社に勤務している薬剤師です。

東日本学園大学卒業 (現北海道医療大学)

佐々木 靖子	第20期生	平成8年度卒
中村 寛	第20期生	平成8年度卒
相沢 泰子	第20期生	平成8年度卒
石井 恵子	第17期生	平成5年度卒
保村 尚利	第16期生	平成4年度卒
青木 一朗	第15期生	平成3年度卒
青木 真由美	第14期生	平成2年度卒
川元 裕史	第5期生	昭和56年度卒
野呂 さえ子	第3期生	昭和54年度卒
三上 志津子	第1期生	昭和52年度卒
三上 章	第1期生	昭和52年度卒



保険調剤・一般医薬品・介護用品・衛生材料



## (株)太誠堂薬局

本社 小樽市塩谷2丁目17番地12号  
☎ (0134) 26-3451

支店 札幌 白石店/山鼻店/稲穂店  
小樽 奥沢店/住ノ江店/花園店

## 情報化調剤をめざして実践する



保険調剤

株式会社 ドラッグ・サンジョウ

## ナカゴマ薬局

代表取締役 中島久司

本社/☎080-0017 帯広市西7条南7丁目2番地6 ☎(0155)25-7389  
札幌本部/☎001-0014 札幌市北区北14条西4丁目11の11 ☎(011)737-4138  
帯広本部/☎080-0017 帯広市西7条南7丁目2番地6 ☎(0155)25-7389

## 創業18年 医薬分業のさきがけ

(株)中央薬局 薬剤師募集中

本店 旭川市4条通11丁目右10号 TEL (0166) 22-2108

代表取締役社長 堀籠 昌之 (薬剤師)

畑中 勝(3期) 塚野 弘美(6期) 星場 悟(11期) 今泉 茂子(12期) 近藤ゆかり(13期)

北海道北随一の店舗で健康社会に奉仕

中央薬局本店	豊岡中央薬局	大雪中央薬局	神居西中央薬局	永山中央薬局
みずほ中央薬局	本町中央薬局	東旭川中央薬局	永山南中央薬局	二条中央薬局
十字街中央薬局	新富中央薬局	東光中央薬局		

札幌証券取引所上場  
医薬品総合卸 IBMコンピュータ販売



# ホシ伊藤株式会社

代表取締役会長 伊藤 太郎

代表取締役社長 伊藤 寛志

本社 札幌市中央区南8条西14丁目3番15号 電話(561)-6111



医療法人

## 東札幌病院

院長 石谷 邦彦

- 診療科目／内科、消化器科、外科、循環器科、肛門科
- その他／人間ドック、健康診断  
緩和ケア病棟
- 診療時間／平日：午前9時～午後5時  
土曜：午前9時～正午  
(日曜・祝日一休診)

〒003-0003 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35号(南郷通り)  
TEL 011-812-2311(代表) FAX 011-823-9552



## 「編集後記」

北海道にもやっと「夏」がやってまいりました。一年ぶりの会報を会員の皆様のお手元にお届けいたします。

長年にわたり薬学部ならびに大学発展のためにご尽力いただきました縣先生、高田先生ならびに藤間先生がこの当別の地を3月で御退任されました。我々同窓生も大変お世話になり、思い出深い3先生にメッセージを頂きました。表紙は最終講義の時の写真です。

去る5月30日に総会が無事終了し本年の活動方針も決まりましたが、会報への記事が少ないのが少し残念です。毎年2回の発行予定ですが会員の皆様の情報交換の場にしたいと思っておりますのでどしどし情報をお寄せ下さい。次回の発行は来年3月の予定です。

浜上 尚也 (9期)

### 原稿募集

東日薬会報編集部では会員の方々からの投稿を期待しております。  
 随筆、紀行、文芸、学術、提言および大学への注文など2000字程度でお願いします。  
 写真原稿も大歓迎、カラーでもかまいませんが白黒の方が印刷の都合上より鮮明になります。ピント良好のものをお送りください。  
 「伝言板」、「支部、クラス会だより」  
 クラス会、支部会の開催通知、尋ね人などというような身近な問題、話題などのコーナーを設けました。会員の皆様にフルに活用して頂きたいと思っております。さらに、支部会、クラス会などの集会がありましたら、是非その記事をお送り下さい。到着順にすべて会報に掲載いたします。  
 本文は2000字程度まで、写真や寄せ書きだけでも結構です。  
 原稿は、市販の四百字詰用原稿用紙に手書きでもワープロ(20×20)でもかまいません。  
 なお、掲載した原稿は原則としてお返ししません。また、内容によっては返却する場合がありますが、採否は編集委員会で決定させていただきます。

### このような場合には、 ぜひご連絡を

1. 同窓会会員の結婚  
 式の日時、会場(所在地の住所)をお知らせください。  
 東日薬より会場宛に「祝電」を打たせて頂きます。  
 なお、会員同志の結婚の場合には連名でお願いします。
2. 同窓会会員の死亡  
 死亡日時、死亡原因、葬儀の日時、喪主、会場(所在地の住所)をお知らせください。  
 東日薬より会場宛に「弔電」を打たせて頂きます。  
 上記各項をご連絡の場合、当事者の卒業期、氏名、住所をお忘れなく。また、友人、知人の会員で各項に該当する場合にもご連絡願いますれば幸いです。  
 〈連絡方法〉  
 ハガキまたは封書でお願いします。  
 2 (死亡) の場合には電話でも結構です。

〈連絡先〉 〒061-0293  
 北海道石狩郡当別町金沢1757  
 北海道医療大学薬学部内  
 東日薬 事務局  
 TEL (01332) 3-1211 (代表)  
 FAX (01332) 3-1669 (学内共通)  
 TEL/FAX (01332) 3-0301 (同窓会室)